

インド宣教旅行



3年ぶりにインドにやってきた。この国を一言で表現することは難しい。世界の宗教が生まれたということが納得させられる。一種の覚悟と心構えがないまま入国するとき、目に見えない大きなものに圧倒される。それが、文化なのか、気候なのかそれとも何なのかは分からない。



イスラム教徒も多い。しかしこの国はヒンズー教の国である。



大東宣教師の開拓伝道の働きは驚くべきリバイバルを生み出している。



何よりも弟子訓練によって信徒が教会を始める。すでに 100 以上の教会が生まれている。右の写真はピンク色のシャツを着た息子さんがお母さんの手を引いている。お母さんは目が不自由だった。



ここに集まっているのは牧師夫婦。ダリットと呼ばれているインドカースト制度の最下層の人々である。戸籍もなければ人間としても認められていない。非公式な発表によれば、インドにはこのような人々が 3 億人もいるという。



彼らの愛と聖霊の働きにより、ヒンズー教徒の迫害にもかかわらず、多くの方々が救いに導かれている。

まずクリスチャンがお互いに愛し合っている。本当に美しい交わりだ。孤児や未亡人を助け、支えている姿を見て、人々が集まってくる。

クリスチャンであるがゆえに暴力を受け、放火された牧師もいる。

1 年で最も涼しい季節だったが、扇風機をフルに回しても滴り落ちる汗を止めることはできなかった。